

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2021

課題番号：15H03329

研究課題名(和文)市場仲介と経済成長：日欧4研究所による国際共同研究プロジェクト

研究課題名(英文)Market intermediation and economic growth

研究代表者

堀井 亮(Horii, Ryo)

大阪大学・社会経済研究所・教授

研究者番号：90324855

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,510,000円

研究成果の概要(和文)：これまでの経済成長理論では、財の開発・生産を行う企業と家計が財や労働力を直接取引する状況を考え、実際の経済取引や情報の伝達で重要な役割を果たしている市場仲介者の働きを明示的に考えてこなかった。しかし、近年の情報技術の革新や新しい市場技術の登場は、市場仲介や情報が経済成長を牽引したり、場合によってはバブル的な熱狂を発生させる可能性を示唆している。そこで、経済成長分析・実証分析に強みをもつ国内3経済系研究所と、市場仲介の先進的研究実績を持つオランダのティンバーゲン研究所が連携し、テーマに関連する研究を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

市場仲介や市場取引は、情報や知識の伝播を促進する。知識の蓄積は経済成長の源泉であり、その意味でも、市場仲介や市場取引の重要性が明らかになった。一方、市場仲介や情報の伝播がバブル的な資産価格の状況を生み得ることや、家計がリスクに関する情報を急激に得ると消費や雇用が抑制され得ることも明らかになった。これらの両面性を踏まえつつ、適切な政策設計を行うことの重要性が示唆される。

研究成果の概要(英文)：Previous studies in economic growth have been considering the situation in which producing firms and households can trade goods and labor directly and did not explicitly introduce intermediate agents who have essential roles in actual market transactions. However, recent innovations in information technology and the rise of new transaction technologies suggest that improved market mediation could affect economic growth or possibly give rise to a bubble-like phenomenon. In this project, three research institutes in Japan collaborated with Tinbergen Institute in Netherland to conduct related research.

研究分野：経済学

キーワード：経済成長 市場仲介 情報 バブル

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまでの経済成長理論では、財の開発・生産を行う企業と家計が財や労働力を直接取引する状況を考えており、実際の経済取引や情報の伝達で重要な役割を果たしている市場仲介者の働きを明示的に考えてこなかった。一方、市場仲介のミクロ経済的研究は、個々の取引メカニズムにのみ興味を持っており、マクロ変数への波及や長期の動学的効果を考えていなかった。しかし、近年の情報技術の革新や新しい市場技術の登場は、市場仲介や情報が経済成長を牽引したり、場合によってはバブル的な熱狂を発生させる可能性を示唆している。

2. 研究の目的

経済成長分析・実証分析に強みをもつ国内3経済系研究所と、市場仲介の先進的研究実績を持つオランダのティンバーゲン研究所が共同して、「経済成長やバブルの発生」と「市場仲介や情報伝達」の相互作用を解明する。

3. 研究の方法

- (1) 市場仲介についてはティンバーゲン研究所の渡辺誠を中心として研究を進める。まず、市場仲介者(Middlemen)を通じたサーチ活動について基礎理論を構築する。次にその基礎理論を、現実経済に合わせて拡張する。さらに、マクロ経済との関連をモデル化する。
- (2) 経済成長とバブルの基礎理論に関しては、大阪大学社会経済研究所の堀井亮、神戸大学経済経営研究所の上東貴志が中心となり研究を進める。また、情報とマクロ経済の関連についても分析する。
- (3) データを用いた計量的分析については、京都大学経済研究所(当時所属)の奥井亮が研究を進める予定であったが、プロジェクト期間途中で上記研究者が海外転出したことから、一橋大学経済研究所の中島賢太郎をプロジェクトメンバーに加え実証分析を行うこととした。
- (4) 各研究所において主体的に研究を行うが、相互研究訪問、セミナーなどの実施により、研究シナジーや研究手法の普及を目指す。

4. 研究成果

- (1) 市場仲介者(Middlemen)について基礎理論を構築した。情報にサーチ的摩擦がある市場において、市場仲介者が在庫を持ち、売買を仲介するメリットを示すフレームワークが構築された。これらの結果は、Middlemen: the visible market makers, Japanese Economic Review, 69-2 (2018), 156-170 および、Middlemen: a directed search equilibrium approach, BE Journal of Macroeconomics (Advances), 20-2 (2020), 1-37 などに掲載された。また、経済成長理論では研究により財の多様性が増加することが成長の源泉となるが、それに関連し、上記の市場仲介理論フレームワークを多様な財が取引される状況に拡張した。その結果は Multiproduct intermediaries, Journal of Political Economy, 129-2 (2021), 421-464 として掲載された。さらに、その手法をマクロ経済に応用し、市場仲介が資産価格

バブルの要因となることを解明した。その研究は、Rational bubbles and middlemen として Theoretical Economics に掲載予定である。

- (2) 経済成長の源泉やバブルの発生・崩壊に関する基礎理論の構築と、情報とマクロ経済の相互関係に関する研究を行った。長期の経済成長の源泉は技術進歩にあると考えられているが、従来の経済成長理論フレームワークでは、コブダグラス生産関数の特殊ケースを除き、労働増加的な技術進歩しか取り扱うことができなかった。しかし、消費財と資本財の相対価格のデータは、資本増加的な技術進歩の存在を示しており、それをモデルに取り入れるための理論を構築した。その結果は "A Multi-factor Uzawa Growth Theorem and Endogenous Capital-Augmenting Technological Change," ISER Discussion Paper 1051 としてまとめられた。また、市場ショックや災害などのリスクについての家計による情報収集をベイズ学習プロセスとして定式化し、マクロ経済の反応を分析し、Financial Crisis and Slow Recovery with Bayesian Learning Agents," International Journal of Economic Theory として発表した。バブルの崩壊や発生についての研究も行い、International Transmission of Bubble Crashes in a Two-Country Overlapping Generations Model, Journal of Mathematical Economics 68, 115-126 および、A Simple Optimality-Based No-Bubble Theorem for Deterministic Sequential Economies with Strictly Monotone Preferences, Mathematical Social Sciences, Volume 91, 36-41 として発表した。
- (3) 取引と知識伝播の関連について、地理的データおよびネットワークのデータを用い、実証分析を行った。成長の源泉となる研究および知識蓄積においては、取引を行う企業間の知識スピルオーバーが重要な役割を果たしている。そのスピルオーバーが地理的距離にどの程度影響を受けるかについて研究を行い、成果が Localization of Collaborations in Knowledge Creation, The Annals of Regional Science 62(1), 119-140 に発表された。また、国内における市場取引ネットワークと、海外進出の関連についても実証分析を行い、Do sourcing networks make firms global? Microlevel evidence from firm-to-firm transaction networks, Japanese Economic Review, 72(1), 65-96, January 2021 に掲載された。
- (4) 上記の研究を行う過程で、国内外の研究所の相互交流を行った。研究代表者がオランダのティンバーゲン研究所で長期滞在研究を行ったほか、ティンバーゲン研究所から大阪大学社会経済研究所へ、長期での研究者受け入れを行った。セミナーなどの報告を多く行い、研究者間での知識交換や、研究成果の普及に努めた。また、市場取引によって発生するバブルや、バブルの経済成長に対する影響について、ロンドン大学より研究者を招へいし、大阪大学社会経済研究所主催の公開レクチャー「資産バブルと経済成長」を行った。国内の多数の大学から参加があり、関連する研究についての国内の研究レベル向上に貢献できたとすれば幸いである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計56件（うち査読付論文 35件 / うち国際共著 23件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 Horii Ryo, Ono Yoshiyasu	4. 巻 Forthcoming
2. 論文標題 Financial crisis and slow recovery with Bayesian learning agents	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Economic Theory	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijet.12322	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Casey Gregory, Horii Ryo	4. 巻 -
2. 論文標題 A Generalized Uzawa Growth Theorem and Capital-Augmenting Technological Change	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 SSRN Electronic Journal	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2139/ssrn.4007775	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 堀井 亮	4. 巻 98(20)
2. 論文標題 パンデミックと経済 ベスト、HIVでも示された人命と成長のトレードオフ (歴史でわかる経済危機 : 大恐慌再来でどうなる世界)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀井 亮	4. 巻 97(30)
2. 論文標題 学者が斬る 視点争点 成長持続の条件は産業の淘汰	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀井 亮	4. 巻 97(24)
2. 論文標題 学者が斬る 視点争点 AIの統計的推定が生む「差別」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀井 亮	4. 巻 97(18)
2. 論文標題 学者が斬る 視点争点 技術革新を潰す時代遅れの規制	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Pieter Gautier, Bo Hu, Makoto Watanabe	4. 巻 Forthcoming
2. 論文標題 Marketmaking middlemen	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 RAND Journal of Economics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yu Awaya, Kohei Iwasaki, Makoto Watanabe	4. 巻 Forthcoming
2. 論文標題 Rational Bubbles and Middlemen	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Theoretical Economics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Awaya Yu, Fukai Hiroki, Watanabe Makoto	4. 巻 62
2. 論文標題 A MODEL OF COLLATERAL: ENDOGENIZING THE BORROWING CONSTRAINT	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Economic Review	6. 最初と最後の頁 1131 ~ 1151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/iere.12506	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rhodes Andrew, Watanabe Makoto, Zhou Jidong	4. 巻 129
2. 論文標題 Multiproduct Intermediaries	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Political Economy	6. 最初と最後の頁 421 ~ 464
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1086/711917	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Watanabe Makoto	4. 巻 20
2. 論文標題 Middlemen: A Directed Search Equilibrium Approach	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The B.E. Journal of Macroeconomics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/bejm-2019-0258	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuoka Tarishi, Watanabe Makoto	4. 巻 108
2. 論文標題 Banking crises and liquidity in a monetary economy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Economic Dynamics and Control	6. 最初と最後の頁 103724 ~ 103724
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jedc.2019.103724	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島賢太郎	4. 巻 123
2. 論文標題 ソーティングと地域間経済格差	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 住宅土地経済	6. 最初と最後の頁 18-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Itoh Ryo, Nakajima Kentaro	4. 巻 72
2. 論文標題 Do sourcing networks make firms global? Microlevel evidence from firm-to-firm transaction networks	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Japanese Economic Review	6. 最初と最後の頁 65 ~ 96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s42973-020-00061-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 賢太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 交通インフラ整備の政策評価研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 自動車交通研究 2019	6. 最初と最後の頁 24-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中島 賢太郎、岡本 亮介	4. 巻 2019
2. 論文標題 日本の地域間賃金格差における移住によるソーティング効果の測定	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 応用地域学研究	6. 最初と最後の頁 1 ~ 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34438/arsc.2019.23_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Gokan Toshitaka, Kuroiwa Ikuo, Nakajima Kentaro	4. 巻 62
2. 論文標題 Agglomeration economies in Vietnam: A firm-level analysis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Asian Economics	6. 最初と最後の頁 52 ~ 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.asieco.2019.03.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高槻 泰郎, 上東 貴志	4. 巻 25
2. 論文標題 投機かりリスクヘッジか 堂島米市場再考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済史研究	6. 最初と最後の頁 31-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kamihigashi Takashi, Keskin Kerim, Saglam Cagri	4. 巻 91
2. 論文標題 Organizational refinements of Nash equilibrium	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Theory and Decision	6. 最初と最後の頁 289 ~ 312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11238-021-09812-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shibamoto Masahiko, Takahashi Wataru, Kamihigashi Takashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Japan's monetary policy: a literature review and empirical assessment	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Computational Social Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s42001-021-00113-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kamihigashi Takashi	4. 巻 2020
2. 論文標題 Interchanging a limit and an integral: necessary and sufficient conditions	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Inequalities and Applications	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13660-020-02502-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kamihigashi Takashi, Stachurski John	4. 巻 48
2. 論文標題 Partial stochastic dominance via optimal transport	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Operations Research Letters	6. 最初と最後の頁 584 ~ 586
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.orl.2020.07.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ken-Ichi Akao, Hitoshi Ishii, Takashi Kamihigashi, Kazuo Nishimura	4. 巻 Forthcoming
2. 論文標題 Existence of an optimal path in a continuous-time nonconcave Ramsey model	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Pure and Applied Functional Analysis	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Carpio Ronaldo, Kamihigashi Takashi	4. 巻 26
2. 論文標題 Fast value iteration: an application of Legendre-Fenchel duality to a class of deterministic dynamic programming problems in discrete time	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Difference Equations and Applications	6. 最初と最後の頁 209 ~ 222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10236198.2020.1713770	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 上東貴志	4. 巻 -
2. 論文標題 計算社会科学と経済学におけるAI	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 栗原聡監修「人と共生するAI革命最前線～人工知能がもたらす生活・産業・社会の未来像を展望する～」 12章4節	6. 最初と最後の頁 427-433
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kamihigashi Takashi、Stachurski John	4. 巻 56
2. 論文標題 A unified stability theory for classical and monotone Markov chains	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Applied Probability	6. 最初と最後の頁 1～22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/jpr.2019.2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Gregory Casey and Ryo Horii	4. 巻 1051
2. 論文標題 A Multi-factor Uzawa Growth Theorem and Endogenous Capital-Augmenting Technological Change	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ISER Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 堀井 亮	4. 巻 97(11)
2. 論文標題 逆転の発想で「再配達」を減らす	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀井 亮	4. 巻 97(5)
2. 論文標題 将来志向の違いで見る貿易戦争	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀井 亮	4. 巻 96(44)
2. 論文標題 P. ローマー『内生的経済成長論』研究開発重視の政策に多大な影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 76-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石堂 詩乃,高槻 泰郎,上東 貴志	4. 巻 15
2. 論文標題 「丁稚」か「Salary man」か : 神戸高等商業学校卒業生のキャリア選択	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 企業家研究	6. 最初と最後の頁 25-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kentaro Nakajima and Tetsuji Okazaki	4. 巻 71
2. 論文標題 The Expanding Empire and Spatial Distribution of Economic Activities: The Case of Japan's Colonization of Korea during the Pre-war Period	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Economic History Review	6. 最初と最後の頁 593-616
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ehr.12535	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyasu Inoue, Kentaro Nakajima and Yukiko Umeno Saito	4. 巻 62
2. 論文標題 Localization of Collaborations in Knowledge Creation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Annals of Regional Science	6. 最初と最後の頁 119-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00168-018-0889-y	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Watanabe	4. 巻 69-2
2. 論文標題 Middlemen: the visible market makers	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Economic Review	6. 最初と最後の頁 156-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jere.12168	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kumamoto Shin-Ichiro, Kamihigashi Takashi	4. 巻 6
2. 論文標題 Power Laws in Stochastic Processes for Social Phenomena: An Introductory Review	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Physics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fphy.2018.00020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Camacho Carmen, Kamihigashi Takashi, Saglam Cagri	4. 巻 174
2. 論文標題 Robust comparative statics for non-monotone shocks in large aggregative games	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Economic Theory	6. 最初と最後の頁 288 ~ 299
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jet.2017.12.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Chen Jinhui, Takiguchi Tetsuya, Takatsuki Yasuo, Itoh Munehiko, Kamihigashi Takashi	4. 巻 1
2. 論文標題 An AI-based approach to auto-analyzing historical handwritten business documents:	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Computational Social Science	6. 最初と最後の頁 167 ~ 185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s42001-017-0009-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kamihigashi Takashi	4. 巻 91
2. 論文標題 A Simple optimality-based no-bubble theorem for deterministic sequential economies with strictly monotone preferences	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Mathematical Social Sciences	6. 最初と最後の頁 36 ~ 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.mathsocsci.2017.10.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Hiroyasu, Nakajima Kentaro, Saito Yukiko Umeno	4. 巻 43
2. 論文標題 Localization of knowledge-creating establishments	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Japan and the World Economy	6. 最初と最後の頁 23 ~ 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.japwor.2017.09.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Makoto	4. 巻 69
2. 論文標題 Middle Men: The Visible Market-Makers	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Japanese Economic Review	6. 最初と最後の頁 156 ~ 170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jere.12168	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Marc Muller and Makoto Watanabe	4. 巻 47
2. 論文標題 Competition in the presence of individual demand uncertainty	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 RAND Journal of Economics	6. 最初と最後の頁 273-292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Christian Holzner and Makoto Watanabe	4. 巻 -
2. 論文標題 Intermediation services and search frictions	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tinbergen institute Working Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Lee, Sokbae, Ryo Okui & Yoon-Jae Whang	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Doubly Robust Uniform Confidence Band for the Conditional Average Treatment Effect Function	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 the Journal of Applied Econometrics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jae.2574	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Okui, Ryo	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Misspecification in Dynamic Panel Data Models and Model-free Inferences	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Japanese Economic Review	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jere.12080	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Liu, Qingfeng, Ryo Okui & Arihiro Yoshimura	4. 巻 35
2. 論文標題 Generalized Least Squares Model Averaging	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Econometric Reviews,	6. 最初と最後の頁 1692-1752
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/07474938.2015.1092817	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lise Clain-Chamosset-Yvrard and Takashi Kamihigashi	4. 巻 68
2. 論文標題 International Transmission of Bubble Crashes in a Two-Country Overlapping Generations Model	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Mathematical Economics	6. 最初と最後の頁 115-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13660-016-1288-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takashi Kamihigashi and John Stachurski	4. 巻 163
2. 論文標題 Seeking Ergodicity in Dynamic Economies	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Economic Theory	6. 最初と最後の頁 900-924
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jet.2016.03.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Makoto Watanabe, Marc Moller	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Competition in the presence of individual demand uncertainty	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 RAND Journal of Economics	6. 最初と最後の頁 forthcoming
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Makoto Watanabe, Marc Moller	4. 巻 #16-020
2. 論文標題 Market Structure and Advance Selling	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Tinbergen Institute Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2139/ssrn.2757590	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Makoto Watanabe, Christian Holzner	4. 巻 #15-017
2. 論文標題 Understanding the Role of the Public Employment Agency	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Tinbergen Institute Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ryo Okui	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Misspecification in Dynamic Panel Data Models and Model-free Inferences	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Japanese Economic Review	6. 最初と最後の頁 forthcoming
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jere.12080	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Liu, Qingfeng, Ryo Okui & Arihiro Yoshimura	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Generalized Least Squares Model Averaging	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Econometric Reviews	6. 最初と最後の頁 forthcoming
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/07474938.2015.1092817	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takashi Kamihigashi, Lise Clain-Chamosset-Yvrard	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 International Transmission of Bubble Crashes in a Two-Country Overlapping Generations Model	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Mathematical Economics	6. 最初と最後の頁 forthcoming
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jmateco.2016.01.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takashi Kamihigashi, John Stachurski	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Stability Analysis for Random Dynamical Systems in Economics	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Rabi N. Bhattacharya: Selected Papers, springer	6. 最初と最後の頁 forthcoming
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takashi Kamihigashi, Kevin Reffett and Masayuki Yao	4. 巻 11 (4)
2. 論文標題 An Application of Kleene 's Fixed Point Theorem to Dynamic Programming: A Note	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 International Journal of Economic Theory	6. 最初と最後の頁 429-434
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijet.12074	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takashi Kamihigashi	4. 巻 Volume 11, Issue 1
2. 論文標題 Multiple Interior Steady States in the Ramsey Model with Elastic Labor Supply	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 International Journal of Economic Theory	6. 最初と最後の頁 25-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijet.12050	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計91件（うち招待講演 31件 / うち国際学会 46件）

1. 発表者名 堀井 亮
2. 発表標題 リスクと経済成長のサステナビリティ
3. 学会等名 神戸大学基盤S科研費ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀井 亮
2. 発表標題 経済成長はいつまで続く？
3. 学会等名 ラボカフェスペシャル feat. 鉄道芸術祭（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀井 亮
2. 発表標題 A Generalized Uzawa Theorem and Capital-Augmenting Technological Change
3. 学会等名 東北大学現代経済学研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀井 亮
2. 発表標題 A Generalized Uzawa Theorem and Capital-Augmenting Technological Change
3. 学会等名 SURED 2020 - Monte Verita Conference on Sustainable Resource Use and Economic Dynamics (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀井 亮
2. 発表標題 A Generalized Uzawa Theorem and Capital-Augmenting Technological Change
3. 学会等名 第21回 マクロコンファレンス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀井 亮
2. 発表標題 Technological Change and Economic Growth
3. 学会等名 Workshop at Kobe University (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀井 亮
2. 発表標題 A Multi-factor Uzawa Growth Theorem and Endogenous Capital-Augmenting Technological Change
3. 学会等名 Society for Economic Dynamics 2019 Meeting (WUSTL) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀井 亮
2. 発表標題 Comment on "Dynamic Model under Positive Labour Utility and Time Constraints"
3. 学会等名 Japanese Economic Association 2019 Spring Meeting (Musashi University) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀井 亮
2. 発表標題 Sustainability of Environment and Economic Growth
3. 学会等名 Workshop hosted by General Council Chairperson (Tokyu capitol hotel, Tokyo) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀井 亮
2. 発表標題 A Multi-factor Uzawa Growth Theorem and Endogenous Capital-Augmenting Technological Change
3. 学会等名 Midwest Macroeconomics Meetings (University of Georgia) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀井 亮
2. 発表標題 生産関数と技術進歩
3. 学会等名 基盤研究 研究会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 On the Use of Satellite-Based Vehicle Flows Data to Assess Local Economic Activity: The Case of Philippine Cities
3. 学会等名 2021 Asia Impact Evaluation Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島賢太郎
2. 発表標題 On the Use of Satellite-Based Vehicle Flows Data to Assess Local Economic Activity: The Case of Philippine Cities
3. 学会等名 応用地域学会年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 Estimating the Impact of Land Use Regulation on Land Price: At the Kink Point of Building Height Limits in Fukuoka
3. 学会等名 15th North American Meeting of the Urban Economics Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 Estimating the Impact of Land Use Regulation on Land Price: At the Kink Point of Building Height Limits in Fukuoka
3. 学会等名 10th European Meeting of the Urban Economics Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島賢太郎
2. 発表標題 Consumption Access and the Spatial Concentration of Economic Activity: Evidence from Smartphone Data
3. 学会等名 京都大学都市経済ワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 Estimating the Impact of Building Height Restrictions on Land Price: At the Kink Point of Building Height Limits in Fukuoka
3. 学会等名 第34回応用地域学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima, Keisuke Takano
2. 発表標題 Estimating the Impact of Building Height Restrictions on Land Price: At the Kink Point of Building Height Limits in Fukuoka
3. 学会等名 The First Workshop on “ Adjustment to Globalization ”
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima, Keisuke Takano
2. 発表標題 Estimating the Impact of Building Height Restrictions on Land Price
3. 学会等名 The First Workshop on “ Adjustment to Globalization ” (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中島賢太郎
2. 発表標題 Impact of Workplace Communication Networks on Productivity: A New Approach Using Wearable Sensors
3. 学会等名 経済学研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島賢太郎
2. 発表標題 Impact of Workplace Communication Networks on Productivity: A New Approach Using Wearable Sensors
3. 学会等名 9th Meetings on Applied Economics and Data Science (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島賢太郎
2. 発表標題 Impact of Workplace Communication Networks on Productivity: A New Approach Using Wearable Sensors
3. 学会等名 14th Meeting of the Urban Economics Association
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島賢太郎
2. 発表標題 実証都市経済学
3. 学会等名 経済学研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島賢太郎
2. 発表標題 The Impact of the Opening of High-Speed Rail on Innovation
3. 学会等名 都市経済ワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島賢太郎
2. 発表標題 実証都市経済学
3. 学会等名 数理モデリング研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 Impact of Workplace Communication Networks on Productivity: A New Approach Using Wearable Sensors
3. 学会等名 9th European Meeting of the Urban Economics Association
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上東 貴志
2. 発表標題 ポストコロナ社会における政策決定
3. 学会等名 第12回横幹連合コンファレンス 特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上東 貴志
2. 発表標題 社会リスク可視化システム、及び社会リスクに適切に対応する意思決定システムの開発
3. 学会等名 第12回横幹連合コンファレンス 特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 KAMIHIGASHI Takashi
2. 発表標題 Creating Value for the Future of AI and Society
3. 学会等名 International Conference on Creating Value for the Future of AI and Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KAMIHIGASHI Takashi
2. 発表標題 Value and Evaluation in Economics and AI
3. 学会等名 International Conference on Creating Value for the Future of AI and Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryo Horii
2. 発表標題 A Multi-factor Uzawa Growth Theorem and Endogenous Capital-Augmenting Technological Change
3. 学会等名 Macro Seminar (AMSE, Aix-Marseille University) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryo Horii
2. 発表標題 A Multi-factor Uzawa Growth Theorem and Endogenous Capital-Augmenting Technological Change
3. 学会等名 OSIPP Economics Brownbag Seminar (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryo Horii
2. 発表標題 なぜ貿易不均衡は起きるのか？『行動経済学』で解明する
3. 学会等名 在阪報道関係者と大阪大学との懇談会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryo Horii
2. 発表標題 A Multi-factor Uzawa Growth Theorem and Endogenous Capital-Augmenting Technological Change
3. 学会等名 Tongji University Economics and Finance Academic Seminar (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀井 亮
2. 発表標題 長期経済成長における土地と自然資源の役割について
3. 学会等名 リスク研究センター マクロ経済学セミナー (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takashi Kamihigashi
2. 発表標題 A Dynamic General Equilibrium IS-LM Model
3. 学会等名 Sapporo Summer Workshop on Monetary and Financial Economics 2018 (北海道大学) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島 賢太郎
2. 発表標題 都市とイノベーション
3. 学会等名 日本経済学会秋季大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market
3. 学会等名 Society for Economic Dynamics Annual Meeting（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market
3. 学会等名 経済学ワークショップ（東京理科大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market
3. 学会等名 経済学ワークショップ（早稲田大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market
3. 学会等名 GRIPS/U-Tokyo Applied Economics Workshop
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market
3. 学会等名 経済学ワークショップ(横浜国立大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market
3. 学会等名 経済学ワークショップ(北海道大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Intermediation and reputation
3. 学会等名 SUNYGame theory conference(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Rational bubbles and middlemen
3. 学会等名 Midwest Macro meetings in Madison (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Banking panics and the lender of last resort in a monetary economy
3. 学会等名 Summer Workshop on Money, Banking, Payments and Finance in St. Luis FED (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Endogenous repo cycles
3. 学会等名 U Nottingham Ningbo China (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryo Horii
2. 発表標題 A Multi-factor Uzawa Growth Theorem and Endogenous Capital-Augmenting Technological Change
3. 学会等名 5th Joint Economic Workshop in Economics Between Faculty of Economics, Chulalongkorn University, Graduate School of Economics, Osaka University, And Institute of Social and Economic Research (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryo Horii
2. 発表標題 A Multi-factor Uzawa Growth Theorem and Endogenous Capital-Augmenting Technological Change
3. 学会等名 Policy Modeling Workshop (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryo Horii
2. 発表標題 A Multi-factor Uzawa Growth Theorem and Endogenous Capital-Augmenting Technological Change
3. 学会等名 International Conference on Trade, Financial Integration and Economic Growth 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryo Horii
2. 発表標題 A Multi-factor Uzawa Growth Theorem and Endogenous Capital-Augmenting Technological Change
3. 学会等名 the WINPEC Seminar (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market
3. 学会等名 7th European Meeting of the Urban Economics Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market
3. 学会等名 12th Meeting of the Urban Economics Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kentaro Nakajima
2. 発表標題 Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market
3. 学会等名 EHES-Keio University Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Market-making middlemen
3. 学会等名 European Economic Association meeting (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Understanding the role of the Public Employment Agency
3. 学会等名 European Economic Association meeting (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ryo Okui
2. 発表標題 Confidence set for group membership
3. 学会等名 2016 Japan-Korea Allied Conference in Econometrics (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ryo Okui
2. 発表標題 Panel Data Analysis with Heterogeneous Dynamics
3. 学会等名 Lund University Seminar
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ryo Horii
2. 発表標題 THE DYNAMICS OF US-JAPAN CURRENT ACCOUNT IMBALANCE
3. 学会等名 Abe Fellow Retreat 2016 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Market-making middleman
3. 学会等名 Seminar presentation (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Market-making middleman
3. 学会等名 Seminar presentation (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Market-making middleman
3. 学会等名 International Industrial Organization Conference annual meeting (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Market-making middleman
3. 学会等名 16th CEPR-JIE School and Conference on Applied Industrial Organization (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Market-making middleman
3. 学会等名 Annual Search and Matching conferenc (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Competitive sequential search equilibrium
3. 学会等名 Search and Switching Conference (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Understanding the role of the Public Employment Agency
3. 学会等名 CESifo Area Conference on Employment and Social Protection (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Bo Hu, Makoto Watanabe
2. 発表標題 Marketmaking middleman
3. 学会等名 EARIE meeting (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Understanding the role of the Public Employment Agency
3. 学会等名 European Economic Association meeting (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Market-making middleman
3. 学会等名 Toulouse School of Economics Seminar Presentation (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Competitive sequential search equilibrium
2. 発表標題 Competitive sequential search equilibrium
3. 学会等名 Workshop presentation, VU Amsterdam (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 渡辺誠
2. 発表標題 Competitive sequential search equilibrium
3. 学会等名 サーチ理論研究会 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 渡辺誠
2. 発表標題 Market making middleman
3. 学会等名 首都大学東京 経済学セミナー
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Understanding the role of the Public Employment Agency
3. 学会等名 University of Munich, Seminar presentation (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Makoto Watanabe
2. 発表標題 Understanding the role of the Public Employment Agency
3. 学会等名 IZA/ CREST/Bonn University Workshop: Employment Policies and heterogeneity in the Labor Market (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 渡辺誠
2. 発表標題 Marketmaking middleman
3. 学会等名 慶応義塾大学、セミナー発表
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 渡辺誠
2. 発表標題 Understanding the role of the Public Employment Agency
3. 学会等名 マクロ経済学・エコフィジックスワークショップ
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 渡辺誠
2. 発表標題 Understanding the role of the Public Employment Agency
3. 学会等名 有賀健教授退官記念カンファレンス
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 奥井亮
2. 発表標題 MISSPECIFICATION IN DYNAMIC PANEL DATA MODELS AND MODEL-FREE INFERENCES
3. 学会等名 日本経済学会春季大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 奥井亮
2. 発表標題 DOUBLY ROBUST UNIFORM CONFIDENCE BAND FOR THE CONDITIONAL AVERAGE TREATMENT EFFECT FUNCTION
3. 学会等名 Frontiers of Theoretical Econometrics in celebration of Don Andrews' 60th birthday
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 奥井亮
2. 発表標題 Panel Data Analysis with Heterogeneous Dynamics
3. 学会等名 Princeton-QUT-SJTU-SMU conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 奥井亮
2. 発表標題 Panel Data Analysis with Heterogeneous Dynamics
3. 学会等名 Netherlands Econometric Study Group (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 奥井亮
2. 発表標題 Panel Data Analysis with Heterogeneous Dynamics
3. 学会等名 Econometric Society World Congress (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 奥井亮
2. 発表標題 Panel Data Analysis with Heterogeneous Dynamics
3. 学会等名 UvA- Econometrics Panel Data Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Takashi Kamihigashi
2. 発表標題 Computational Methods in Dynamic Macroeconomics
3. 学会等名 Computational Social Science Japan Kickoff Workshop in Japan (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上東貴志
2. 発表標題 利益相反の分類と社会組織の安定性
3. 学会等名 公開シンポジウム「リスク社会における公共性の構造転換と社会関係資本 - 計算社会科学からの挑戦 -
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Takashi Kamihigashi
2. 発表標題 Robust Comparative Statics of Non-Monotone Shocks in Large Aggregative Games
3. 学会等名 Time, Uncertainties and Strategies (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Takashi Kamihigashi
2. 発表標題 A Dynamic General Equilibrium IS-LM Model
3. 学会等名 Singapore Economic Review Conference 2015 (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Takashi Kamihigashi
2. 発表標題 Seeking Ergodicity in Economic Models
3. 学会等名 15th SAET Conference on Current Trends in Economics 2015 (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Takashi Kamihigashi
2. 発表標題 A Dynamic General Equilibrium IS-LM Model
3. 学会等名 マクロ・金融ワークショップ
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Takashi Kamihigashi
2. 発表標題 A Dynamic General Equilibrium IS-LM Model
3. 学会等名 IEFS Japan Annual Meeting 2015 (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Takashi Kamihigashi
2. 発表標題 A Dynamic General Equilibrium IS-LM Model
3. 学会等名 13th Viennese Workshop Optimal Control and Dynamic Games (国際学会)
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計1件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	上東 貴志 (Kamihigashi Takashi) (30324908)	神戸大学・計算社会科学研究所・教授 (14501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中島 賢太郎 (Nakajima Kentaro) (60507698)	一橋大学・大学院経営管理研究科・准教授 (12613)	
研究分担者	奥井 亮 (Okui Ryo) (20563480)	京都大学・経済研究所・准教授 (14301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	渡辺 誠 (Makoto Watanabe)	ティンバーゲン研究所・Research Fellow	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 社研ゲストレクチャーシリーズ「資産バブルと経済成長」	開催年 2021年～2021年
--------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
オランダ	アムステルダム自由大学	ティンバーゲン研究所	
米国	ウィリアムズ大学	ブラウン大学	